

「横地分類 (改訂大島分類)」

「移動機能」、「知能」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

<知能レベル>					
E6	E5	E4	E3	E2	E1
D6	D5	D4	D3	D2	D1
C6	C5	C4	C3	C2	C1
B6	B5	B4	B3	B2	B1
A6	A5	A4	A3	A2	A1
簡単な計算可					
簡単な文字・数字の理解可					
簡単な色・数の理解可					
簡単な言語理解可					
言語理解不可					
<特記事項>					
C: 有意な眼瞼運動なし					
B: 盲					
D: 難聴					
U: 両上肢機能全廃					
<移動機能レベル>					
戸外歩行可	室内歩行可	室内移動可	座位保持可	寝返り可	寝返り不可

だと思えます。また、その在宅介助をする家族の負担は相当大きいものだと思います。こうした障害に対応できるのは医療機能を持つ障害福祉施設だけです。私たちの施設は人工呼吸をしながらよい生活を送ってもらうための支援の経験はかなり積んでいます。私たちにあっては畑違いの障害ですが、一般病院とは違う生活支援のノウハウを培っていることは確かです。求められれば、やらねばならない仕事ではないかと今思っています。

だいちの

日常活動紹介

和田 彰

だいちでは、身体障害は殆どありませんが、知的には最重度で、強度の行動障害を持つ方が15名生活をしていています。利用者ひとりひとりがよりよい生活を送れるように、分かりやすい日課を設定し、分散した時間を多く持つことで落ち着いた生活が送れるような環境をできるだけつくっています。

ます。また、個々の持っている行動障害を理解し、個別に対応することを心掛けています。だいちでは、1週間の内、6日間の午後約1時間を日常活動の時間として設定しています。4つのグループの内、3つのグループがだいちという生活空間から離れた場所で行っています。内容はそれぞれ個別に設定してすすめています。

毎日感じる事が重要であり、心の豊かさにつながると考えています。日常活動の多くは評価が難しく試行錯誤の繰り返しです。Aさんの日常活動も毎日上手くいくとは限らず、日々の変化を見逃さず、評価をして次につなげていかななくてはなりません。そこには職員の高い能力・技術が必要となります。評価に結びつけるために必要な高い能力・技術とは、優れた観察力にあると思います。そして、観察したことを言語化する事、言語化したことを第三者が理解できる文章に起こすことができる能力・技術が求められます。さらに得られた情報を分析し、新たな予測を立て、実施する能力が必要で。

日常活動を

提供して

和田 利重子

Aさんの日常活動の紹介をします。Aさんは日常活動の時間になると活動の道具が入っている棚を自分で開け、道具を取り出し(ひとりひとり1つのカゴに入っています)、自分のやりたい場所に広げてやり始めます。内容は主に積み木などを積み上げることを行っています。積み上げていく時は何度も途中で崩れても、真剣な眼差しで取り組み、全て積み上げてしまうと表情が和らぎ、笑顔が見られます。職員が声を掛けて褒めるととても嬉しそうに表情をします。Aさんの日常活動は時間にして5分前後だと思えますが、積み上げて完成した時の表情は、満足感や達成感を感じることがができます。このできたという感覚を短い時間でも

私にとって活動の時間は、利用者より深く関わりを持つことができ、新たな利用者の自発的な動きや関心を発見でき、今まで見たことがなかった表情に出会える可能性のある大切な時間です。

Aさんは音楽をかけるという表情が見られるので、昨年からは様々な音楽を取り入れた活動を提供してきました。ある日、隣でキーボードを弾きながら歌を歌っていると、キーボードに手を伸ばしてきました。集中して鍵盤をねらって触っているようでした。「上手にならしていますね。」と声を掛けるとニコニコとし、ちょっと得意気な表情にも見えました。その様子から、自分で音を出すことにも関心があるということが分かり、現在はタンバリンやツリーチャイムなどの楽器を触って音を出す活動へと展開しています。

活動や生活の中で、利用者が見せてくれる表情の変化や自発的な動きを大切に受けとめ、職員間で共有することで、

日常活動を考える上で常に思っていることは、その人の可能性を引き出すことです。今取り組んでいることを積み重ね、利用者が楽しい・もつとやりたいと感じられるような日常活動をこれからも考えていきたいと思えます。

※横地分類 B4-B...1名、B6-D...1名、B6...4名、A6...9名 計15名

(だいち 係長)